

事業報告書（令和7年度）

事業名 自然探検「こどもの森のしぜんとあ・そ・ぼ」

団体名 特定非営利活動法人岡山市子どもセンター 担当者名 廣川 祐子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

活動名：「夏の自然観察会～夏のいきもの～」

日時：2025年6月15日（日）9:00～11:30

場所：国際児童年記念公園こどもの森

講師：(NOI 岡山/自然観察指導員：福元隆三他4名)

参加者：16人（子ども9人、大人7人）

内容：①スタッフ紹介、諸注意（危険生物の説明他）

②アイスブレイク：ネイチャーゲーム「ノーズ」

③観察会 NOI 岡山のスタッフに案内してもらいながら公園を散策し、動植物に親しむ。（出会った生きもの：ヒラズゲンセイ、ミミズ、ヨコズメサシガメ、アリ、ショウジョウバッタ、ヤモリ…等20種類以上・植物：サンゴジュ、アカメガシワ、スモモ、タラヨ、ウコバンソウ等20種類以上）

フジ棚のクマバチの幼虫を食べるヒラズゲンセイ、白い妖精のようなハゴロモなど新たな知識に参加者は興味津々。それをきっかけに色々な生き物に関心が高まり、「これは何？」と質問をしていた。普段は何気なく通る場所をゆっくりと観察の目で見ていくと、次々と発見があり、生き物を探す子どもたちのキラキラした目が印象的だった。





活動名：「セミの抜け殻調査」

日時：2025年7月19日（土）9:00～12:00

場所：国際児童年記念公園こどもの森

講師：多田正和 助手：今井綾菜（大学生）

参加者：10人（子ども6人、大人4人）

内容：①子どもやその保護者と一緒に、決めたコースを全員で歩き、木の上や葉っぱについた抜け殻を採取。

②採取したセミの抜け殻を種類ごとに分類し、個数を数える。今年の特徴、経年の調査からわかることの意見交換をする。感想を発表。

③集めた抜け殻に枝や葉っぱ等を加えて、各々が記念のオブジェを作成。

④調査結果は、NHK シチズンラボ「セミ大調査」に報告。

今年は、梅雨が短く、7月初旬から連日 35℃を超える猛暑続き、セミの鳴き声が聞こえず心配していたが、7月10日頃から聞こえるようになった。当日は500個を超える個体を見つけることができた。初参加の子どもは、最初はセミの抜け殻にこわごわ触っていたが、探していくうちに次第に「私の宝物」に変わるほど大切なモノになり、手のひらにのせて大切に扱っていた。今年の集計は、クマゼミ 480 個、アブラゼミ 39 個、ニイニイゼミ 10 個、ツクツクボウシ 0 個であった。昔は少なかったクマゼミが多くなったのは、地球温暖化の影響があることを教えてもらった。実体験がその人の視野を広げ新しい世界への扉を開いていくことを今年もスタッフ一同体感した。

今回の調査結果は、NHK シチズンラボ「セミ大調査」に報告した。令和8年2月中旬に NHK シチズンラボより、ホームページに掲載した旨の連絡があった。

掲載された 2025 年度の団体報告記事

https://www.nhk.or.jp/citizenlab/semi/count_report25.html



■ 活動名「セミと遊ぼう」

日時：2025年7月26日（土）9:00～11:00

場所：国際児童年記念公園こどもの森

サポート：多田正和 助手：今井綾菜（大学生）

参加者：11人（子ども6人、大人2人）

内容：①セミを見つける、採るコツを学ぶ（練習）

②セミを探す、採る ③観察をする

④セミの様子をスケッチする（ミニセミ図鑑の作成）



網を使ってセミを採る練習をして、自分で捕まえることができるようにポイントを説明した。最初は、触るのも怖かった子どもが飛ぶときの羽音を聞き、羽根や顔・体を触れるようになり、セミの面白さに気づくことができた。セミをよく見て、スケッチする際に、図鑑と比べてみたり、友だち同士で気づきを話し合ったりして、より深く観察していた。蚊帳を吊るし、その中に捕まえたセミやその他の生きものを放ち、セミが飛ぶ羽音を間近で聞き、飛ぶ様子を目の前で見て、感じる体験となった。蚊帳の中の子どもたちは、セミに詳しい子どもが解説するのを興味深く聞いていた。図鑑を見る際にも、生のセミを見ているので、自分事としてリアルに感じ、図鑑の面白さも体験していた。



活動名：「自然観察会～どんぐりを探してみよう～」

日時：2025 年 11 月 15 日（土）10:00～12:00

場所：国際児童年記念公園こどもの森

参加者：28 人（子ども 16 人、大人 12 人）

講師：NOI 岡山/自然観察指導員連絡会

内容：①講師と一緒にこどもの森を散策しながらどんぐりを探す。

②特徴を聞きながら、樹木や落ちているどんぐりを見て触って観察。

③どんぐりを並べて種類と違いを観察。 ④味わう（食べる）

前半は、園内にある 11 種類のどんぐりの樹を見て回り、特徴を観察し、どんぐりなどを拾った。後半は、どんぐりを並べ、茹でたり炒ったりしたどんぐりを食し、味の違いを体験した。初めて参加した親子は、どんぐりが食べられることに驚き、実際に食べてみると美味しいことを体感し、何個も食べていました。身近な公園（こどもの森）に 11 種類ものどんぐりがあること知り、さらにその違いを詳しく説明してもらったので、どの人も驚き、興味関心が高まっていた。



2. ESDの視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

- ・「セミの抜け殻調査」では、天候の違いで、個体数が大きく変わることを体験した。セミだけでなく、他にも天候により個体数に変化があるのかどうか、セミはどこで気候を感じるのか等の質問があり、子ども同士も話をしていた。今まで気づかなかった世界を知るきっかけとなっていた。
- ・特に大人は、普段は高いところを見ないので、「久しぶりに上を見るために首を動かしたね」という声があり、今日の体験を通して日常をふりかえり、視野を広くすることが大切であることを感じていた。
- ・他者との関わりをとおして、知識を交換し共有することの面白さ、視野が広がることを体感していた。
- ・『観察』を面白い、楽しいと感じた子どもが多かった。観察の目を養うことができた。
- ・大人が興味関心を持つことが、子どもたちの興味関心につながっていることを大人は再認識した。
- ・図鑑に触れる、読むことへの関心が高まった。
- ・自然観察指導員の方々から、五感を使って学ぶことの面白さを伝えてもらい、自然とのつながり、子孫を増やすための仕組みなどに興味関心が高まった。どんぐりの種類について、もっと発見したい！という欲求も生まれていた。

②どのように学び合いを取り入れたか

- ・各活動後に参加者とともに感想や発見を共有し、あらたな発見や知識増につないだ。
- ・専門家による解説、質疑応答が興味関心を高めた。「次はいつ？」「広報は、ホームページを見たらよいですか？」という質問があるなど関心のある人が増えている。実際にイベントに参加するリピーターが少しではあるが増えている。
- ・書籍や図鑑の紹介により個々に学ぶ機会を提供してもらった。
- ・特に子どもたちには、リアルな体験をしてもらうため、『観る・触れる・感じる』を大切にされた。子育てを始めた大人にとってもリアルな体験は新鮮であった。子どもの頃、学生の頃を思い出していた。
- ・友だち同士で意見交換するなかで、保護者やスタッフも巻き込んで話しあい、さらに不思議な点を出し合うことで互いに学び合うことができた。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

- ・年間数回の体験会（セミ調査、自然観察会等）を実施することで、何度も体感する機会を提供している。リピーターが増えるなど少しずつ効果がでている。
- ・図鑑や書籍、web上の情報など、各自が情報を入手できるよう知らせた。
- ・セミの抜け殻調査は、NHK シチズンラボ「セミの大調査」に報告し、参加者にも知らせた。全国規模での調査があることなど視野が広がるようにした。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

新たな参加者やリピーターが増えた。今年の体験が日常につながるよう、特にリピーターには日頃の親子でのエピソードを聞くなど、参加者とスタッフのコミュニケーションを図った。子どもたちが楽しみにしてくれていること、知識が広がっていることを保護者から聞くことができ、じわじわと自然への興味関心が高まっていることを確認できた。特に大人は、普段気づかないことに気づくことができた。大人の姿勢が子どもに影響することも感じていた。子どもたちは、他の参加者と一緒に虫を捕まえること、意見交換をすることが楽しいと感じ、生き生きと活動していました。その様子を大人が見ることで大人も刺激を受けていました。日常生活においても、自然を見る目や実体験が大切であり、そのことを通して他の事象とつなげて考えられることがわかり、喜びになっていた。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

体験の格差が広がる中で、こどもの森をフィールドにした体験活動は、子どもの頃の原風景となり、大人になって興味関心の扉を開くことにつながる。子どもの頃に身の回りの自然を見て、感じる体験を重ね、知識を蓄積することで、中学生高校生と年齢が大きくなって得た体験や知識とつなげて考えられるようになり、生きた知識となる。また、多様な年齢の人と共に体験することで、他者と関わることの喜びも感じられる。また、NHK シチズンラボ「セミ大調査 2025」にセミの抜け殻調査の結果を報告した。このことを参加者にも知らせ、各々が視野を広げ、興味関心が高まることで、全国の調査結果と岡山での調査結果を比較し日本の気候や生きものの実態を知ること、岡山地域の持続可能な社会づくりの一旦を担うことができる。また、そういった人材育成につながる。

この活動は、専門家の方々との交流等を活動計画に学びを入れている。専門家の「面白い」を市民一般、子どもに広げることで持続可能な社会づくりに寄与したいと考えている。